

おもてなしの心学ぶ

古川第三小 東京五輪・パラに向け

県教委が進めるオリ
ンピック・パラリンピ
ック教育「おもてなし
講座」が16日、大崎市
古川第三小（大内充校
長、児童数718人）
で開かれた。6年生約
120人が、思いやり
の気持ちを持って人と
接する大切さを学んだ。

講座は、2020年
の東京五輪・パラリン
ピックに向け、児童に
おもてなしの心を定着
させようと本年度から
行われている。

この日は、筑波大の
江上いずみ客員教授が
「おもてなしの心と異

文化理解」と題して講
話。江上さんは、元日
本航空の客室乗務員
で、フライト中に身に
付けた接客対応やあい
さつのほか、世界共通
の握手のルールなどを
紹介した。

そのうえで機内を想
定して接客を実演して
みせ、「名前を呼ばれ
てあいさつされること
を喜ぶ人は多い。あい
さつの前に相手の名前
を呼ぶと親近感が増
す」などとアドバイス。

また「思いやりの心は
必ず自分に返ってく
る。相手に喜んでもら

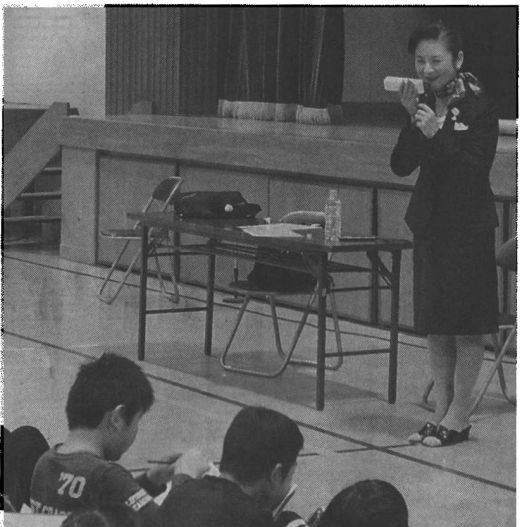
いたいという気持ちを
表して」と強調した。

最後に架空の飛行機
「古川第三小航空」で
の「機内アナウンス」
を日本語と英語で披

露。「三小の子どもた
ちの熱気と活気でふわ
ふわ飛行していきま
す」「行き先は4年後
のオリンピック」など
という粋なアナウンス
に、児童から歓声があ
わっていた。

川嶋日菜子さん(12)
は「出かけたときなど
に外国人が困っていた
ら、おもてなしの心で

接したい」と語って
いた。



機内アナウンスを披露した江上さん